

## モミジワタカイガラムシ

春に広葉樹の幹につくカイガラムシ。最大長約10mm。亀の甲羅のような形で、体の下に白い綿状の卵のかたまりを産む。北海道ではツリバナで多発が観察されている。



1. 雌成虫と卵塊。2001/6/1. 真狩村, ツリバナ。

【学名】 *Lecanium horii*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , カタカイガラムシ科 (Coccidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州。

【生態】

シダレヤナギ, シラカンバ, ハンノキ, ケヤキ, カツラ, ナシ, リンゴ, カエデ類, トチノキなどに寄生する。年1回発生。成虫で越冬。春に産卵する。北海道での生活環は不明。幼虫は7月頃に孵化すると思われる。

【被害】

本州では都市のトウカエデに多発するといわれている。道内では公園のツリバナで多発が観察されている。

【文献】

1994. 河合省三. モミジワタカイガラムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集, 森林昆虫, 総論・各論: 421-422. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

モミジワタカイガラムシ kaigara/momijiwa/  
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/28.

musi.JPG

「写真1」 北村邦明, 喜茂別地区林業指導事務所, 2001.

